

ジョロダ ローラースケート 取扱説明書



型式 : SAS110A308K 【アルミ製 ヘッド付】

ジョロダ・システムの最適利用のため、
ジョロダ専用レールを使用してください。

製造元 : Joloda Hydraroll Ltd(英国)
日本国内総代理店 : 日本ホデーパーツ工業株式会社

1. まえがき

この度は、ジョロダ・ローラスケートをお買い上げいただきありがとうございます。
本製品は、トラック内においてパレットを移動する為のシステムです。
ご使用前には、必ずこの取扱説明書をよくお読みいただき、記載された内容に従って
正しくお使いください。
本書は紛失しないように大切に保管してください。
本製品を他のお客様にお譲りになる場合は、必ず本書も合わせてお渡してください。

2. 概要

本製品は英国で設計・製造された荷役システムであり、世界中で数多く使用されております。
ジョロダ・ローラスケート本体(以下本体と呼ぶ)と起こし棒の組み合わせでトラック内において
パレットを移動するためのシステムです。
このシステムはあらかじめトラック荷台床面に埋め込まれた専用レールの中を、本体が移動
することによりパレット(荷物)を移動させます。
スペースの限られた作業域での荷役に最適で、操作も簡単であり、安全且つ迅速な荷役作業が
できます。

3. 本製品の特長

- * 本体フレームとヘッドにアルミを採用により、従来の鉄製と比べて約5kgの軽量化を実現。
- * 本体フレームの上面に縦溝模様をつける事により、パレット(荷物)の横ズレを軽減。
- * 駆動部は長年実績のあるリンク機構を継承し、従来の鉄製ジョロダと同じ高強度の材質を使用。
- * 今までお使いの鉄製ジョロダと同じ起こし棒であり、同じ操作方法で使用できます。
(緊急用ブレーキ装置【オートダウン機能】はついておりません。)
- * 最大積載量は1600kgであり、アルミ同種製品で最大の積載量です。
- * 軽量かつ丈夫な、アルミ製ジョロダローラスケートです。

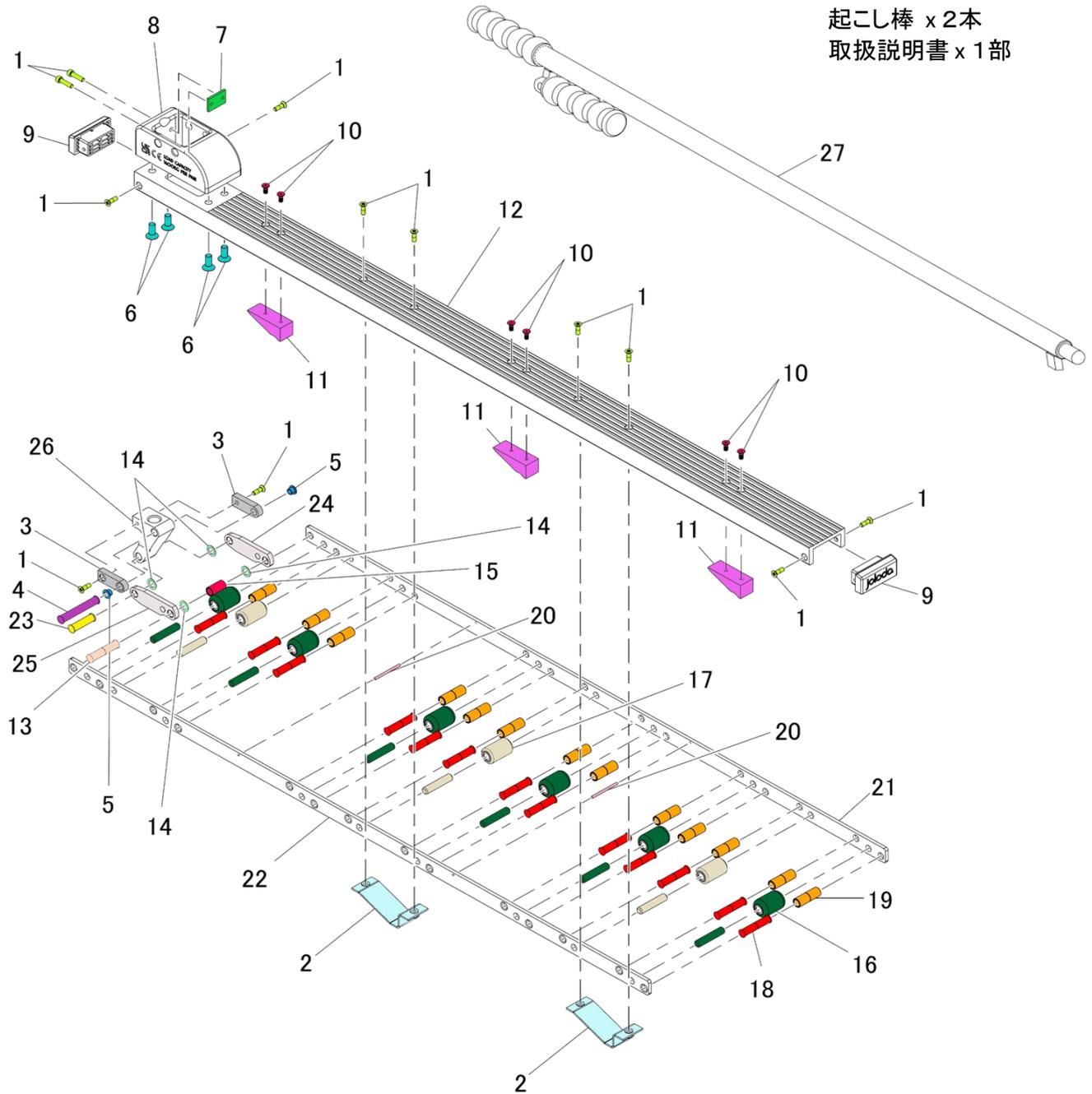
4. 使用上、安全上のご注意

ご使用になる前に以下に記載の「ジョロダ・ローラスケートのしくみと能力について」、
「ジョロダレールについて」、「操作方法」、「使用上、操作上の注意事項」をよくお読みのうえ、
正しくお使いください。
注意事項は安全に関する重大な内容を記載していますので必ず守ってください。

 警告	誤った扱いをすると人が死亡又は重傷を負う可能性が想定される内容を示します。
 注意	誤った扱いをすると人が傷害を負ったり物的傷害の発生が想定される内容を示します。
 禁止	禁止(してはいけないこと)を示します。

5. 各部の名称

梱包内容：アルミスケート本体 x 2本
 起こし棒 x 2本
 取扱説明書 x 1部



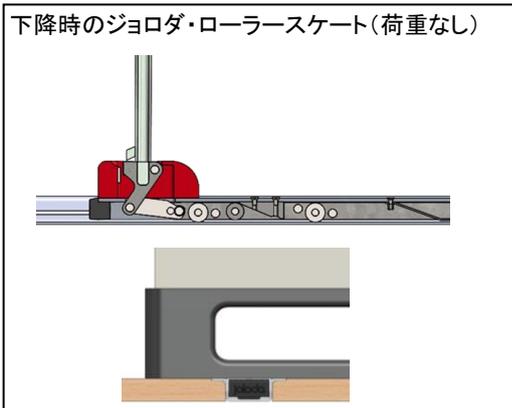
アイテム	部品番号	商品名	数量
①	SAY15009000	トルクスクリュー M5	10
2	SAA16001000	リテンションプレート	2
3	SAY1000700P	ベルクランクスペーサー	2
④	SKY09005000	ベルクランクリベット 長	1
5	SKY15029000	ブッシュ	2
6	SAY15019000	トルクスクリュー M8	4
7	SAY1300700P	ヘッドウェアプレート	1
8	SAY1300600D	アルミヘッド	1
⑨	SAY12005100	エンドキャップ	2
⑩	SKY15007100	ソケットスクリュービス	6
⑪	SAY0700500P	ランプ	3
12	SAS110A308A	本体フレーム	1
13	SAY09014000	リベット	1
14	SKY15006000	ベルクランクワッシャー	4

アイテム	部品番号	商品名	数量
15	SKY1000100P	リンクスペーサー	1
⑬	SAA04004000	メインローラー	6
⑭	SAA04005000	ピボットローラー	3
⑮	SAY09014000	ボギーリベット	13
19	SKY1000300P	ボギースペーサー	13
20	SAY15011000	ダウエルピン	2
21	SAY0601100P	ボギーサイドプレート 左	1
22	SAY0601110P	ボギーサイドプレート 右	1
⑳	SKY09007000	ベルクランクリベット 短	1
㉑	SKA0200400P	ベルクランクリンク 左	1
㉒	SKA0200300P	ベルクランクリンク 右	1
26	SAY0100600P	ベルクランク	1
27	SKA20001000	起こし棒	1

※数量は本体1本あたりの数

○印アイテム番号は、重要消耗品及び消耗品です。

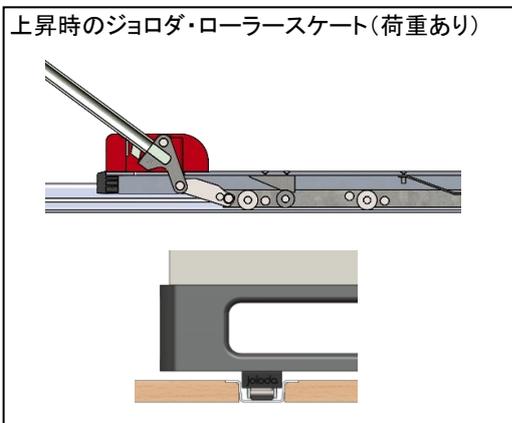
6. ジョロダ・ローラスケートのしくみと能力について



本体は必ず専用レールの中で使用します。

本体は下降時でも上昇時でも、ローラーが回転して前後へ動く構造になっております。

下降時には本体だけが移動します。



本体をパレット(荷物)の下に入れて起こし棒を使ってリフトアップ(上昇)させるとパレット(荷物)を載せたまま移動する事ができます。

上昇→移動→下降の作業によりトラック内でパレット(荷物)を移動して設置する事ができます。

ジョロダ・ローラスケートの仕様(能力)

商品名	全長	有効長さ
ジョロダ(アルミ製)本体 L=1100	1218mm	1079mm

1セット(2本)の最大積載量	1600kg
上昇高	17.0mm

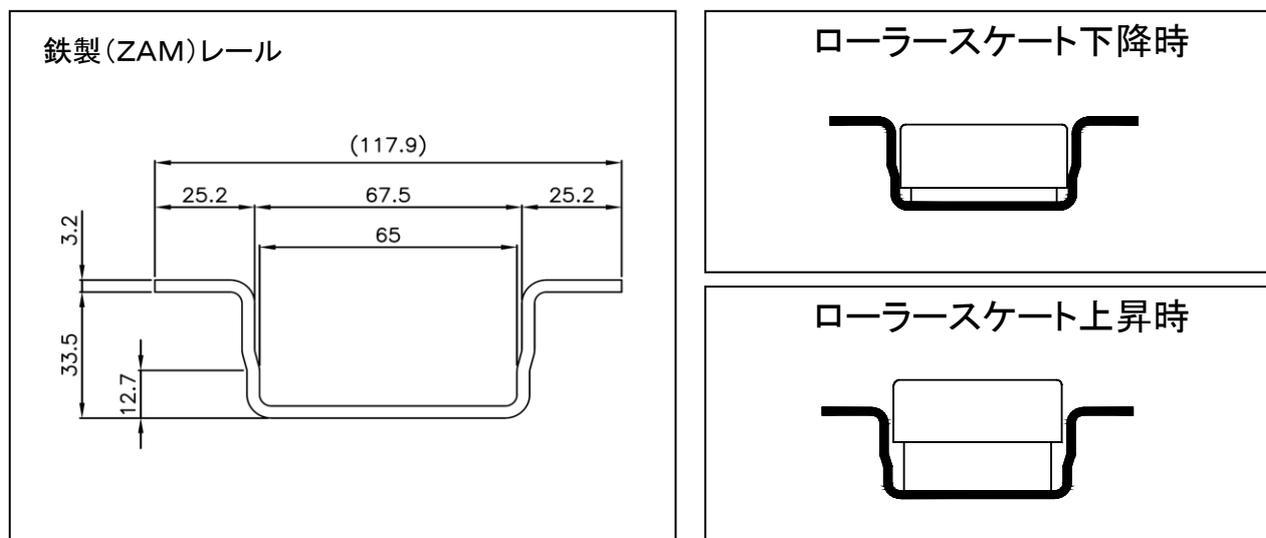
ただし、『最大積載量1600kg』はパレット寸法(奥行)が本体商品名に記載の長さと同じである事、パレット上の積荷の荷重が均等に下へかかる状態の積み方である事、専用レールを使用している事、専用レールが横根太間でたるんでいない事、専用レールも本体も新品であることなど、最適な条件での数値です。

積荷の状態やレールの状態、使用状況など条件により、この数値は低くなりますのであくまで目安の数値としてお考えいただき、状況を見ながらこれ以下の重量で使用してください。

7. ジョロダレールについて

ジョロダ専用レール(JBジョロダレール)の特長

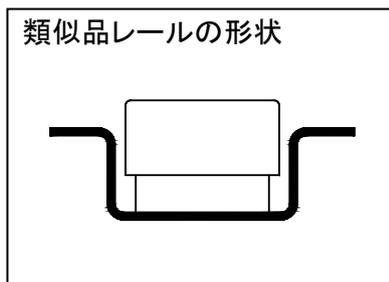
- * ジョロダ専用レール(JBジョロダレール)の形状は下図のように底の方が狭くなっており、本体とレールの側面との隙間を少なくしている為、本体が自動的にレールの中央に位置するようになり、手動力も少なく、真っ直ぐにスムーズな走行が行われます。
- * レールの中央を真っ直ぐにスムーズに走行する為、レール、本体共傷みが少なく長持ちします。



安全、確実な荷役作業を行ない、かつ製品を長持ちさせる為にも、本体を使用する時は必ずJBジョロダレールを使用してください。

- * JBジョロダレールは、鉄製(ZAM)、ステンレス製、アルミ製を用意しております。使用目的、使用状況によりご選択ください。

アルミ製ジョロダレールをご使用の場合は、鉄製やステンレス製に比べて強度的に弱い為、レールのたるみが発生してローラーの動きが悪くなり、操作しにくくなる場合があります。鉄製やステンレス製の約6割(960kg)を最大積載量としてお考えください。



類似品のレールの場合、本体とレール側面との隙間が大きい為、左右に蛇行して走行したり、右端又は左端に片寄って走行したり安定したスムーズな走行ができません。この事により、本体のローラー一部の傷みも早くなり、本体のフレームも曲がったり、歪んだりしやすくなります。また、レールも摩耗しやすく長持ちしません。

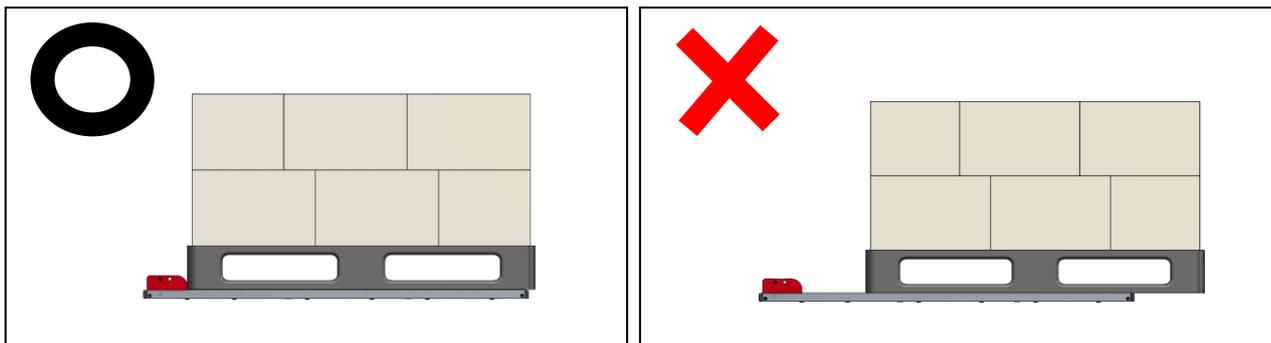
8. ジョロダ・ローラスケート操作方法

2本のジョロダ専用レールと2本の本体によって使用してください。

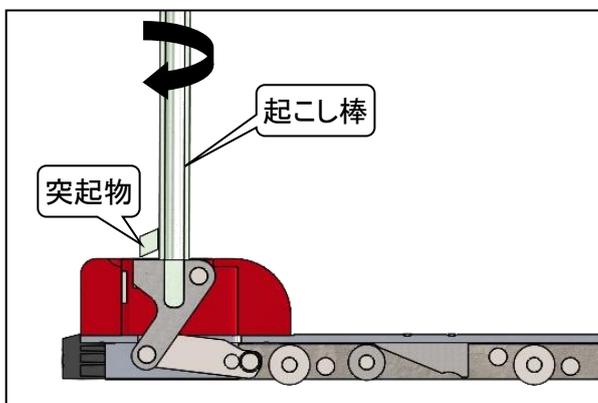
起こし棒で本体をリフトアップさせ、荷物後部から手押しにより、パレット(荷物)を移動させます。

1. ジョロダレール内に本体を入れて、パレット(荷物)の下へすべり込ませてください。
(この時本体は下降の状態)

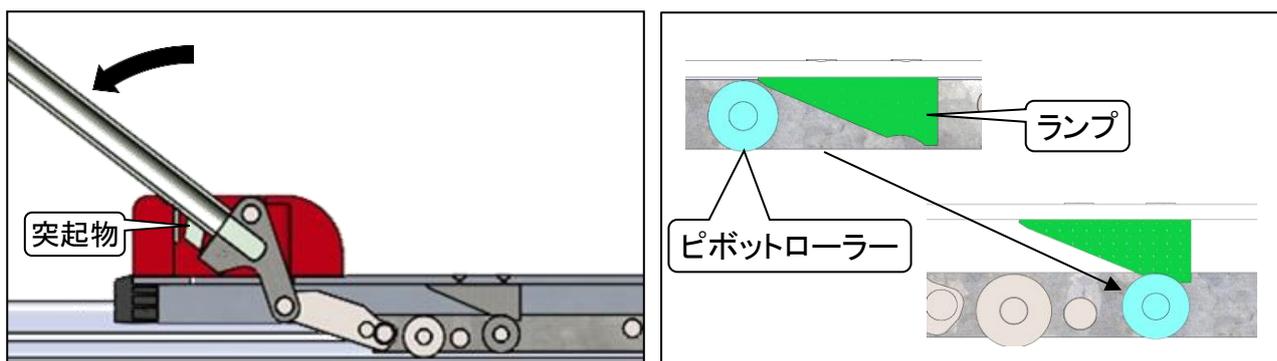
注)この時、パレット(荷物)の端が本体頭部まぎわの位置まで来ように入れてください。



2. 本体頭部の上面にある穴に起こし棒を奥まで差し込んでください。
(この時、起こし棒は垂直の状態)
3. 起こし棒を回転させ、起こし棒先端の突起物が手前にくるようにします。



4. 片方の起こし棒を両手で持って手前に倒していくと、ピボットローラーがランプの上に乗り上げリフトアップします。
この時、起こし棒の突起物がヘッドの内部に完全に入り込む状態まで倒してください。



注) 起こし棒を操作する際は、必ず両手で確実に作業を行ってください。
片手で操作するのは危険です。



注) 完全にリフトアップするまで、絶対に両手を離さないでください。
完全にリフトアップする手前で手を離すと、本体が下へ落ち込み、
その反動で起こし棒がはね戻ったり、飛び出したりして危険です。



注) 新品時は、起こし棒を約50度倒せばリフトアップします。
使用を重ねる事により部品が摩耗してくると、起こし棒を倒す角度が大きくなってきます。
あくまでも目安であり、その都度確実にリフトアップした事を確認してください。



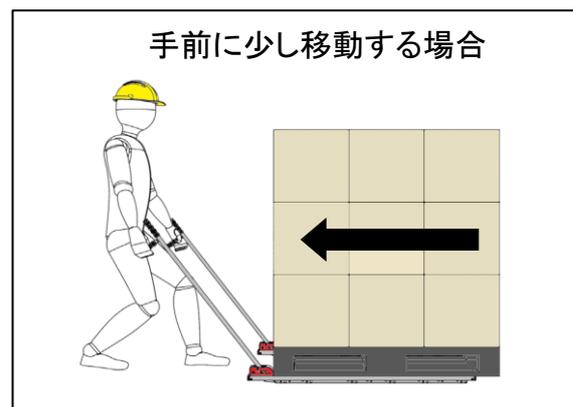
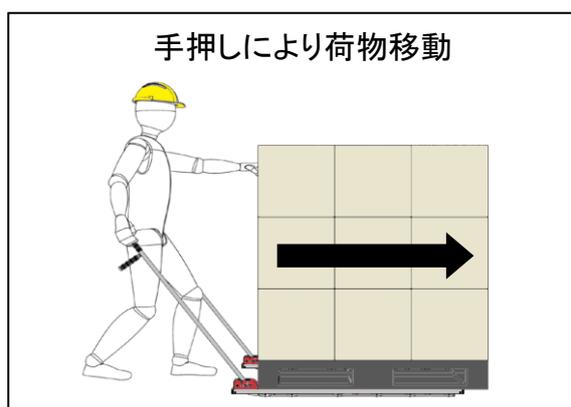
5. 片方の本体が完全にリフトアップしてから、もう片方の本体も同じ手順で
リフトアップさせてください。

注) 必ず片方ずつ順番にリフトアップさせる様にしてください。
両方一度にリフトアップさせるのは危険です。



6. 両方の本体がリフトアップすると、パレット(荷物)は床面より浮いた状態となり、
移動させることができます。

7. 荷物の後側から手押しによりパレット(荷物)を移動させてください。
パレット(荷物)を手前に移動する際、荷物間に隙間が無く、作業者が荷物の後側に回れない
場合があります。その際は、左右の起こし棒に付いている折りたたみ式取っ手を両手で
しっかり握り、パレット(荷物)を手前に少し移動させた後、荷物後部に回り手押しにより
パレット(荷物)を移動させてください。



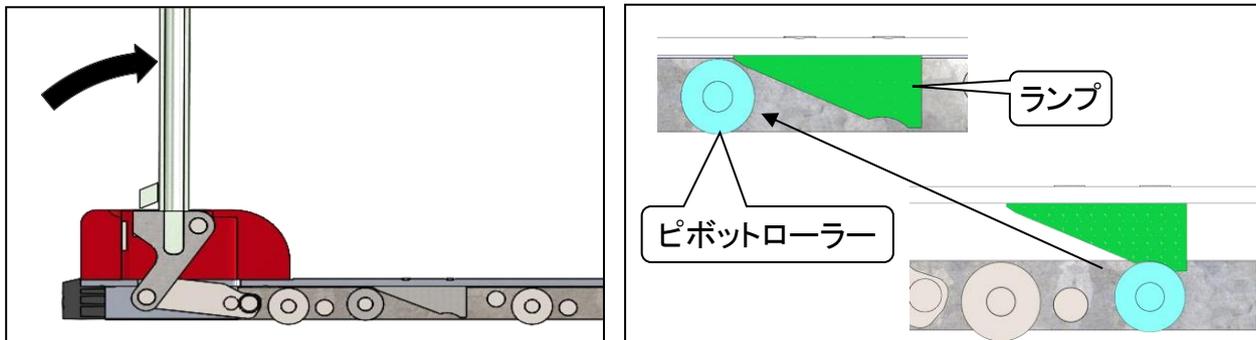
注) パレット(荷物)を移動する際、動かす方向に人が居ないか、障害物が無いか、
十分に確認してから移動してください。



注) パレット(荷物)を移動する際、自分でコントロールできる範囲の速度で
作業を行ってください。



8. 目的の場所までパレット(荷物)を移動し、片方の起こし棒を両手でしっかり持ち、垂直の状態まで前方へ戻してください。次に、もう片方の起こし棒を同じ要領で前方へ戻してください。(本体がローダウンします)



注) 起こし棒を操作する際、必ず両手で確実に作業を行ってください。
片手で操作するのは危険です。



注) 完全にローダウンするまで、絶対に手を離さないでください。
途中で手を離すと、本体が下降するはずみで起こし棒がはね戻ったり、
飛び出したりして危険です。



注) 必ず片方ずつ順番にローダウンさせる様にしてください。
両方一度に行なうのは非常に危険です。



9. 両方の本体が下降すると、パレット(荷物)は床面に設置、安定します。
この時点で、本体とパレット(荷物)とは約3ミリの隙間が生じ、本体は簡単に引き抜くことが
出来ます。

10. 左右の起こし棒を本体から抜き、一時、作業の邪魔にならない場所に置いてください。

11. 本体をパレット(荷物)の下から引き抜き、次の作業に移ってください。

注) トラック後部にて、フォークリフトでパレット(荷物)を積み下ろしする際は、
積む時も、下ろす時も、本体は必ず下降の状態にしてください。
また、起こし棒は必ず本体から抜いた状態で作業を行ってください。



注) 荷役作業が終了して本体を使用しない場合は、レールの中に
本体を入れた状態にせず、保管場所に格納してください。
レールの中に本体を入れた状態にしておくと、トラック走行中に
本体がレール内を前後に移動する為、本体やレールが傷む原因となります。
保管場所でも走行中に本体が移動しないように固定してください。



9. ジョロダ・ローラースケート使用上、操作上の注意事項

1. 本体は必ずジョロダ専用レールと一緒に使用してください。
2. 本体を使用する場合は、必ず荷台が水平な状態で使用してください。

注) 本体は上昇時、下降時にかかわらず、ローラーが回転して動く構造になっています。
急斜面や、荷台が傾斜のついた状況で使用すると、本体や荷物がすべり落ちたり、車外に放り出されたり、非常に危険です。



3. 本体を使用中に車(トラック)を動かしたり、車(トラック)が勝手に動いたりしない様にしてください。

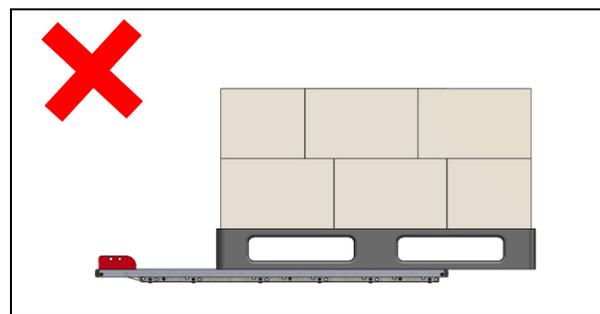
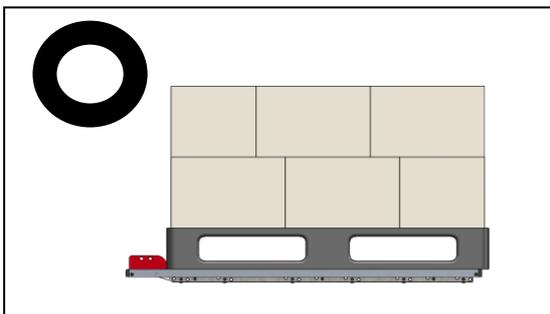


4. 本体は必ず、最大積載量以内で使用してください。



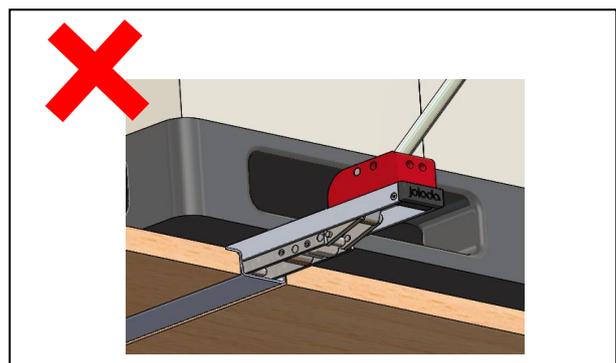
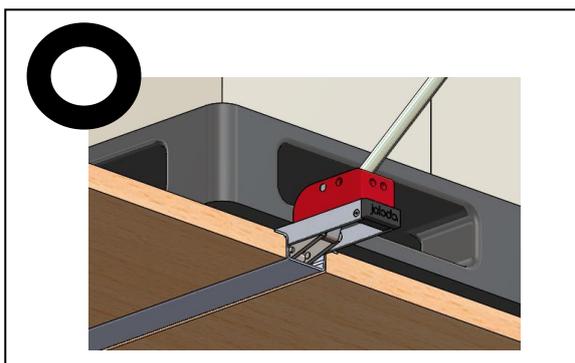
5. パレットは、本体商品名に記載の長さに合致した寸法(奥行)を使用してください。

6. パレット(荷物)の下に本体を入れる際は、頭部まぎわの位置まで確実に入れてください。
確実に入れてからリフトアップしてください。



7. トラック後部で、パレット(荷物)をリフトアップする際は、必ず全てのローラーがレール内に入っている位置で操作してください。
フォークリフトなどでパレット(荷物)を荷台に積む位置は、レールの最後端より内側(奥)に積んでください。

全てのローラーが、レール内に入っていない状態でリフトアップすることは非常に危険であるとともに、本体破損の原因となります。



8. パレット上の荷物は、できる限り均等に積み、パレット及び本体にかかる荷重が均等になるようにしてください。

9. パレット上の荷物は、本体の上昇時、移動時、下降時に荷崩れを起こさないように安定した積み方を行なってください。
不安定な積み方しか出来ない場合は、倒れたり、崩れたりしないように確実に固定してください。



10. 起こし棒を入れてリフトアップする際、確実に上昇するまで絶対に手を離さないでください。
途中で離すと本体が落ち込み、その反動で起こし棒がはね戻ったり飛び出したりするので危険です。



11. 本体をリフトアップさせる際、片方ずつ確実に行なってください。
両方一度に行なう事は非常に危険です。



12. パレット(荷物)を移動する際、動かす方向に人が居ないか、障害物が無いか、十分確認してから動かしてください。



13. パレット(荷物)を移動中は、急に人が現れたり、障害物が現れる事も考えられるので、常に注意を払いながら移動してください。



14. レール部分、本体部分、パレット下部、パレットと荷台床面との隙間などに、手や足や体の一部を入れないでください。
はさまれる恐れがあり、非常に危険です。



15. パレット(荷物)を移動する際、自分でコントロールできる範囲のスピードで行なってください。
パレット(荷物)をスピードをつけて動かすと、積荷が崩れてはさまれたり、パレットや荷物が車外に放り出されて事故につながる恐れがあり、非常に危険です。



16. 本体をローダウンさせる際、起こし棒を使って片方ずつ確実に下降させてください。
両方一度に行なうのは非常に危険です。



17. 本体をローダウンさせる際、完全に下降するまで起こし棒から手を離さないでください。
途中で手を離すと本体が下へ落ち込み、その反動で起こし棒がはね戻ったり、飛び出したりして非常に危険です。



18. 本体をローダウンさせる際、パレット(荷物)の下に足や体の一部をはさまないように十分注意してください。 
19. トラック後部にて、フォークリフトなどでパレット(荷物)を積み下ろしする際は必ず本体はローダウンの状態にし、起こし棒は抜いた状態で作業を行ってください。リフトアップの状態、本体の上に直接パレット(荷物)を積む事は非常に危険であるとともに、本体破損の原因となります。 
20. 本体を使用しない場合は、トラック走行中に本体がレール内外を移動する事が無い様に、保管場所に動かない状態で格納してください。 
21. レール内で使用せずに、一般平面で直に本体を使用する事は絶対にしないでください。非常に危険です。  
22. 本体を荷台から地面へ放り出すなど、乱雑な扱いはしないでください。本体破損の原因となるだけでなく、本体の寿命も縮めます。 
23. 本体を分解したり、改造しないでください。 
24. 荷役作業中に本体がレールと干渉して動かなくなった際、無理に動かそうとせずもう一度ローダウンとリフトアップをやり直してください。 
25. この本体には、緊急用ブレーキ装置(オートダウン機能)はついておりません。本体がレール後端から脱落することが無いように、レール側に本体脱落を防止する加工を施してください。 

10. 日常の点検と修理について

1. 常時、レール内の乾燥、清掃を行ってください。
レール内にゴミやほこりが溜まっていると、本体のローラーが巻き取ってしまい、動きが悪くなったり、破損の原因となります。
2. 常時、本体も乾燥、清掃を行ってください。
ゴミやほこりが付いて固まってくると、ローラーの動きが悪くなってきたり、破損の原因となります。ゴミなどを定期的に取り除いてください。

3. 起こし棒も定期的に見視チェックを行ってください。
亀裂・曲がり等が発見された場合は、直ちに使用を中止してください。
そのまま使用を続けると危険です。
新品を購入いただくことをお勧めいたします。



4. レールに注油したり、塗ったりしないでください。油を塗ると、
ほこりが付着しやすく、ローラーが回転しにくくなり、動きが悪くなります。
ローラーが回転せずレールの上をすべる状態となり、ローラーが偏摩耗
をして寿命も縮まります。



5. 本体に潤滑剤などを注したり、塗ったりしないでください。
潤滑剤は、ローラーのベアリングのグリスを流してしまい、ローラーの寿命を
著しく縮めます。



6. 本体の各部品は、使用を重ねる事により確実に摩耗してきます。
定期的に、作動状態、各部品の摩耗状態、ガタなどをチェックして、
状態によっては修理に出してください。(修理は有償)
特に部品リストに記載してある重要消耗品及び消耗品は頻りにチェックしてください。

7. ローラーの回転が極端に悪くなった場合は、ローラーが摩耗して摩り減っている事や、
フレームが曲がって歪んでいる事などが考えられます。
この様な場合は修理に出してください。(修理は有償)

8. 起こし棒を手前に倒しても、本体が完全にリフトアップしない症状が出た場合は、
直ちに使用を中止して修理に出してください。
そのまま使用を続けていると、リフトアップする際に完全に上がり切らない状態
から下へ落ち込み、その反動で起こし棒がはね戻ったり、飛び出したりして危険です。



注)ベルクランクとベルクランクリンクは、本体をリフトアップする際、大きく荷重が加わる部品で
摩耗も起きやすい部分です。
強度的にも、摩耗に強い材質を使用していますが、使用を重ねる事で、摩り減ってガタが
出てきます。
ガタが大きくなると、起こし棒を倒してもピポットローラーがランプの坂を上り切る事できず、
ランプの溝に入る事ができなくなり、リフトアップする事が出来ません。
この様な場合は直ちに修理へ出してください。

注)新品時は、起こし棒を約50度倒せばリフトアップします。
使用を重ねる事により、部品が摩耗して起こし棒を倒す角度が大きくなってきます。
摩耗度を見る目安にして下さい。

9. 修理については、代理店または取扱い店へお問い合わせください。